

上関 未来通信

豊かな町を原子力発電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.29
正月号

通算343号

発行 平成31年1月20日

頌春

2018年の出来事

- 1/15 上関未来通信26号（正月号）発行
- 3/29 町連協幹事会
- 4/9・10 青壮協が日本原子力産業協会年次大会・JAIF地域ネットワーク意見交換会に参加
- 8/8 上関未来通信27号発行
- 10/2 町連協幹事会
- 10/21 エネルギー講演会を開催（講師・東嶋和子氏）
- 10/26 原子力の日のぼり設置・街宣活動
- 11/5・6 青壮協がJAIF地域ネットワーク見学会に参加
- 11/27 町連協幹事会
- 12/1 上関未来通信28号発行



上関町まちづくり連絡協議会

代表幹事 藤井 快宏

平成31年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また、平素より「上関町まちづくり連絡協議会」の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、西日本豪雨災害や北海道全域

停電、周防大島町全域断水など、生活基盤を揺るがす災害や事故が多発しました。普段何気なく使用している電気や水が突然使用できなくなり、社会生活全般が混乱する様子を目の当たりにして、改めてそのありがたさを実感したところです。

上関町においては、今年に営業運転開始を予定している上盛山風力発電の建設が進んでおり、完成後には、周辺を観光地として整備するという計画も伺っております。そのほか、河津桜で知られる城山歴史公園の桜まつりも、来場者が年々増加しているなど、今後、これらの観光資源を通じた振興が期待されるところです。

原子力に目を向けると、昨年7月に閣議決定された第5次エネルギー基本計画では、原子力は「安全確保を大前提にエネルギー需給構造の安定化に寄与する重要なベースロード電源」と位置づけられ、今後も活用していく方針が示されました。地球温暖化問題や廃炉による減少を考えると、今後、原子力発電所の新増設は避けては通れません。国内唯一の新規立地点である上関地点においても、原子力発電所の建設に向けた動きが一日も早く進むことを期待しています。

当会は、今年も講演会や勉強会等を通じて原子力発電の理解活動を粘り強く行うとともに、「上関原子力発電所の建設・運転を契機とした活力ある豊かな町づくり」に向けた活動を続けてまいります。引き続き、変わらぬご支援をお願いいたします。

最後に、本年が皆様にとりまして、幸多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

平成三十一年一月吉日

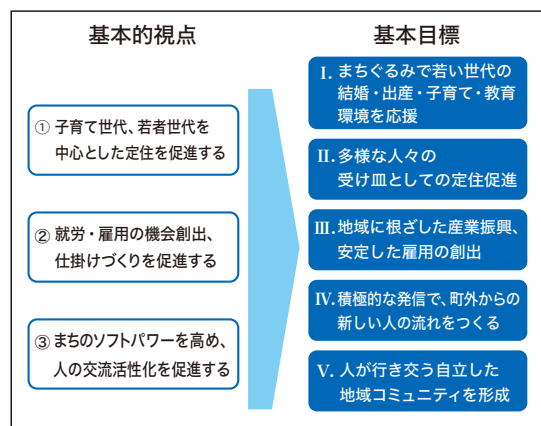
2019年 目標と展望

「未来へ未来へ」と努力すれば
必ず明かりは射してきます



町連協／2015年12月に策定した上関町の総合戦略は、5つの基本目標で構成され、2019年度までの戦略を見据えたものとなっています。3年が経過した現在の進捗についてどのよう

上関町総合戦略の基本的視点と基本目標



人口減少問題への対策に直結する重要な部分だと思いますが、進捗はいかがでしょうか。
柏原／期間内には予定通り数値目標を達成すると思えます。町の姿は、人あつての形ですから、これからの定住対策は厳しくても継続していかねばなりません。



道の駅「上関海峡」

町連協／基本目標「町外からの新しい人の流れをつくる」については、ふるさと納税等を活用し「かみのせきファン」を増やしていくとされていますね。
柏原／税収が徐々に減りつつあるのでも『ふるさと納税』などは今後も積極的に展開していかなくてはならないと思っています。こうした状況にあつてふるさと納税は、寄付金額が増加傾向にあるなど、順調に推移しています。中でも、車えびが人気です。町連協／基本目標の「地域に根ざした産業振興、安定した雇用の創出」については、道の駅「上関海峡」、上関海峡温泉「鳩子の湯」などの既存施設を核に、観光客の増加を進めていくことが示されていますね。
柏原／近年は両施設に相当数の来場者がありますから、今後もこれら2つの施設を核として観光客の増加を進めたいと考えています。



上関海峡温泉「鳩子の湯」

また、両施設は共に雇用の場にもなっていますので、運営をより強固なものにしていかなくてはなりません。そのためにも、来場者をリピーターとして取り込んでいく工夫を継続的に行うことが大切です。様々なイベントを行うなど、常に新しい取り組みを行い、来場者増加に結びつけるよう指示しています。

を切る年にしたいですね。しかし、これまでとスタンスは変わりません。「未来へ未来へ」と扉を開こうとすれば、必ず明かりが射すと信じています。今は、それに向けて努力していくしかないと思っています。
町連協／本日はお忙しい中ありがとうございました。



【対談を終えて】

本日は上関町の総合計画を基にした町の町づくりの方向性が良く分かりました。また、現在建設が進められている風力発電施設は、町税等の減少をカバーするための売電収入と上盛山の観光地化という2つの側面から、今後の上関町のまちづくりに役立つことがよく分かりました。

ただ、人口減少と高齢化が急速に進行している上関町において、町内の雇用の場を生み出すためにも、原子力発電所の必要性に変わりはなく、道の駅「上関海峡」、上関海峡温泉「鳩子の湯」、風力発電所の活用とともに、原子力発電所の建設によって豊かな町づくりが進んでいくことを心から願っています。

柏原／5月1日から元号が変わりますから、新しい時代に向けてスタート